サービスラーニングの視点からみた 愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア

── 愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティアの現状と課題 ──

上　田　勇　仁
（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻）

Analysis of Ehime University Student Campus Volunteer from the Perspectives of Service Learning

── Present conditions and the problem of the Ehime University Student Campus Volunteer ──

Hayato UEDA
（Instructional Systems Program, Graduate School of Social and Cultural Sciences, Kumamoto University）

１．はじめに

1995年１月17日未明に発生した阪神・淡路大震災は，未曾有の大災害であった。死者は5,500人を超え，全壊・半壊・焼失した家屋は約９万4,000戸，ピーク時には約600カ所の避難所で24万人余りの住人が，電気，ガス，水道，公共交通機関等のインフララインを切断されたまま，避難生活を余儀なくされた。

テレビ・新聞等で被害状況を目の当たりにした被災区以外の市民たちが，神戸市内はもとより，全国からボランティアとして，かけつけた。かけつけたボランティアの数は５ヶ月で120万人（延べ）を超えた。この出来事は，のちに「ボランティア元年」と呼ばれるようになった（川村 2006）。

我が国の高等教育機関においても，ボランティアに関する取り組みが行われている。日本学生支援機構が，平成20年度に行った調査によると，国公立で80.5％，私立で82％と８割以上の高等教育機関で，ボランティア情報の提供・相談等を担当する部署が設置されている。

さらに，昨今では，ボランティア活動の経験を正課内での授業と結びつけるサービスラーニングという学習活動が，注目を集めている（桜井・津止 2009）。

本研究では，サービスラーニングの定義を整理する。そして，筆者が昨年まで登録していた愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティアをサービスラーニングの視点で捉え，今後の活動の方針について考察を行う。

２．サービスラーニングの定義

サービスラーニングという概念は，アメリカにおいて発展してきたとされる。その歴史は古く，web サイト National Service-Learning Clearinghouse では，サービスラーニングは，1903年にシンシナ大学で実施されていた，という指摘がある。しかし，サービスラーニングの定義は，一様ではなく，複数の定義が存在しており，現在に至っても定義に関する議論が行われている。以下に，代表的な２つの定義（桜井・津止 2009）を紹介する。（注１）

サービスラーニングは，学生達が，人々とコミュニティのニーズに対応した活動に従事する中で学ぶ，経験的学習のひとつの形であり，そこには意識

的に学生の学びと成長を促進するように設計された構造的な機会が含まれている。内省と互恵がサービスラーニングのキーコンセプトとなっている（Jacoby&Associate 1996）。

サービスラーニングは，サービスの提供者と受け手の両方の変化を意図して，サービスの目標と学習目標を結びつける取組である。それは，自己の振り返りと自己発見，そして価値観・技能・知識の獲得，理解と社会課題の解決を果たす体験が同時に果たされるように良く練られたプログラムである。（National Service-Learning Clearinghouse）

先の定義からサービスラーニングには４つの要素を内包していることが分かる。１）サービスを提供するコミュニティが明確であるか（Community）。２）提供したサービスを通じて，受益者の支援に繋がるか（Reciprocity）。３）サービスを通じた経験的学習が，意図的に設計されているか（Curricular）。４）自身の活動を振り返る機会があるか（Reflection）以上の４つの要素である。

本研究では愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティアの特徴を明らかにするために，サービスラーニングを構成する，上記の４つの要素を採用する。

３．愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア

（１）活動概要

愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア（以下SCV）は，草の根的に行われてきた学生同士のさらなる発展を大学として支援する教育取組である（佐藤 2004）。平成15年にスタートしたこの取組は平成16年度に文科省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された。SCVは団体数，構成内容を変容しながら現在では，９団体で構成されており，さまざまな活動を行っている（表１）。活動形態についても，週に１回程度，ルーチンで活動を行う団体，新入生歓迎週間や学生祭など，年に数回のイベントを実施する団体など様々である。全体で233名（2010年１月）がSCVメンバーとして登録している（表２）。

表１　愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア，団体名と活動内容

団体名	活動内容
愛媛大学学生メンターズ（ESMO）	新入生向け何でも相談窓口の開設・実施，キャンパス清掃の企画・実施，高校生向けのオープンキャンパスツアーや相談窓口の実施
ECOキャンパスサポーター（ECS）	キャンパス環境を学生の力で持続可能にしていく活動
国際交流コーディネーター（ICO）	インターナショナルチャットルームの企画・運営。 留学生と日本人学生との交流の場の提供
ボランティアコーディネーター（AIVO）	ボランティア情報の整理・掲示。ボランティアに関するセミナーの実施
障がい学生支援ボランティア（CBP）	聴覚障がいの学生に対して，ノートテイクや手話通訳の実施
メディア・サポーターズ映像部（MSBT）	学内放送番組「ぞなもしライブス」の制作・放送。愛媛CATV，松山市インフォメーションホームページでの配信
メディア・サポーター出版部（MSPT）	学内広報誌「愛U（ラブユー）」の編集・出版を実施
キャリア・サポーター（CS）	就職活動に関するセミナーの実施，就職活動に関する情報を提供する「キャリサポ新聞」の編集・出版を実施
図書館サポーター（LS）	愛媛大学附属図書館業務の補助，大学生向けのオススメ図書の提案

表２　愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア，団体の登録者人数

団　体　名	平成21年度登録人数
愛媛大学学生メンターズ（ESMO）	7名
ECOキャンパス・サポーター（ECS）	30名
国際交流コーディネーター（ICO）	35名
ボランティアコーディネーター（AIVO）	20名
障がい学生支援ボランティア（CBP）	6名
＊ノートテイカー登録者	66名
メディア・サポーター映像部（MSBT）	22名
メディア・サポーター出版部（MSPT）	10名
キャリア・サポーター（CS）	8名
図書館サポーター（LS）	19名
合　　計	223名

（2）支援体制

SCV に登録したメンバーは，愛媛大学教育・学生支援機構から委嘱状が渡される。各団体には，日常的にアドバイス・指導を行う教職員が顧問として配置されており，責任体制が構築されている。SCV 全体の活動としては，新入生歓迎週間やオープンキャンパスの際に，教職員の方と協同で作業を行うものがある。更に，月に一度，各団体のリーダーが集うリーダーズミーティングの際には，教職員の方からの助言を受けながら，各団体の活動の報告を行う（図１参照）。

四国では，88箇所霊場を巡るお遍路さんに対して，地域の方々が無理をしない範囲で，食べ物を提供し，また声かけを行うなど，極めて日常的な「お接待」と呼ばれる文化がある。SCV はその取組に学んだものであり，各団体が大学内で支援活動を日常的に行っている。

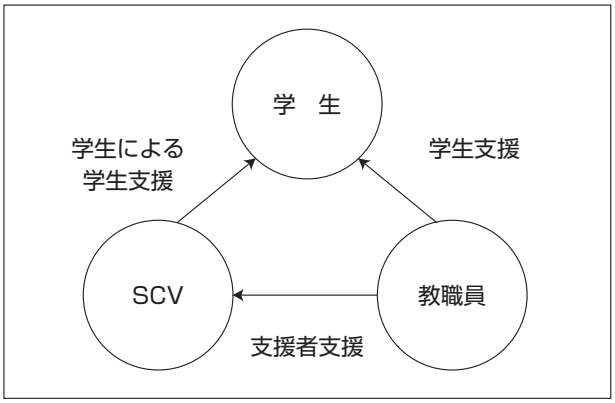

図１　支援体制

（3）年間スケジュール

各団体の活動と並行して，SCV 登録者全員を対象にした交流会・研修等を実施している（表３）。

特筆すべきは，学生による学生支援サービスの質を保証するために，年に３回の SCV 研修を実施していることである。SCV 研修については，SCV 登録者全員に年２回以上の参加を義務づけており，参加できなかった場合，団体ごとにミーティング等で，研修内容の情報共有を行っている（ノートテイカーを除く）。５・６月，２・３月に実施する SCV 研修では，研修の準備，実施を各団体のスタッフが，行っている。この研修は，参加者のスキルの向上に寄与するだけでなく，準備，実施を通じて，自分たちが所属している団体の歴史や意義について，学習することができる。

表３　愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア年間行事

時期	年間行事	内　　容
４月	新入生歓迎週間	新入生対象の何でも相談室，SCV 各団体の合同説明会
５月	教職員との交流会	委嘱状の授与，教職員の方との名刺交換
５･６月	SCV 研修	新入生向け SCV の活動説明，マナー研修，各団体の目標設定
８月	オープンキャンパス	高校生を対象にした大学紹介ツアー
８･９月	SCV 研修	リーダー育成研修会，他大学との交流，お遍路体験
２･３月	SCV 研修	各団体から年間目標達成度の報告，次年度の新入生歓迎週間に関する情報共有
３月	卒業式	卒業生と在校生の交流

４．サービスラーニングの視点で見た愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア

（1）４つの視点からみた SCV の取組

サービスラーニングに含まれる４つの視点から SCV の取組を見ていく。「愛媛大学 SCV（スチューデント・キャンパス・ボランティア）2008年度年間活動報告書」を参考に，各団体の活動を４つの視点ごとに明記した（表４）。

まず，１つ目は，サービスを提供するコミュニティが明確であるか（Community）という視点である。先にも触れたが SCV の活動は「お接待」という文化を取り入れた活動であるため，無理をしない程度という，ゆるやかな制限がかけられている。よって，SCV がサービスを提供するコミュニティは，大学内の一般学生や留学生，あるいは，愛媛大学に興味のある高校生を対象にしていることがわかる。

２つ目は，提供したサービスを通じて，受益者の支援に繋がるか（Reciprocity）という視点である。SCV 各団体が行っている活動内容が支援に該当する。災害等で行う支援とは違い，キャンパス内で実

施できる日常的な活動に限定している。

３つ目は，サービスを通じた経験的学習が，意図的に設計されているか（Curricular）という視点である。ICU 国際基督教大学では，サービス・ラーニング・センターを設置し，サービスラーニングを実施している。座学と実習を通じて，サービスラーニングに関する学習を行っている。国内には，他にもサービスラーニングを実施している大学が存在し，その大半は，サービスラーニングに関する講義と体験学習を組み合わせている。一方で，SCV の取組は，単位を付与する講義形式の取組は行われていない。しかし，年間スケジュールに記載してある，年３回の SCV 研修が，意図的に設計された学習に該当する。さらに，各団体のミーティングは，先輩から後輩への指導，同じ学年同士の話し合いの場となっている。

４つ目は，自身の活動を振り返る機会があるか（Reflection）という視点である。この視点は SCV 研修で実施している研修内容が該当する。各団体で設定した目標を，どの程度達成したか（あるいは達成しなかったか）について，SCV 全体で共有し，他団体のメンバーからコメントや質問を受けることが，SCV 登録者の振り返りの機会となっている。

以上のことから，SCV はサービスラーニングに必要な４つの視点から捉えることができる。

（2）４つの視点からみた SCV への課題

４つの視点ごとにみられる，SCV の課題についての考察をおこなう。

表４の１）Community の列をみると，大学外のコミュニティへのサービス提供も行われていることがわかる。例えば，メディア・サポーターズ映像部は，松山 CATV や松山市のインフォメーションサイトへの映像提供を行っている。平成15年に SCV の取組を開始した際に，SCV の活動は，無理をしない範囲で，大学内での日常的な活動に限定して，ボランティア活動を行う予定であった。それから，数年が経過し，学生の主体的な活動は，学外にも広がっているようである。しかし，学外での活動が活発化する一方で，学内での活動の低下が懸念される。教職員は，学生の主体的な取組を尊重しつつも，無理をしない活動範囲を見極め，適切にアドバイスを行わなければならない。

表４の２）Reciprocity の列をみると，団体ごとに受益者（一般学生等）のためのサービスを展開していることがわかる。しかし，団体ごとにサービスを展開する頻度にばらつきがある。週に１回程度，ルーチンで活動を行う団体，新入生歓迎週間や学生祭など，年に数回のイベントを実施する団体など様々である（2008年度報告書）。

ルーチンで活動を行う団体のメリットは，日常的にサービスを提供できることである。一方，デメリットとして，日々の活動が SCV 登録者の学生生活の負担になった場合，正課内での授業が疎かになる可能性がある。

年に数回のイベントを実施する団体のメリットは，活動を行う期間が限定的なので，正課内での授業の影響をうけにくい。デメリットは，サービスを提供するコミュニティと関わる機会が限定的される点である。１つ目の Community の視点でも指摘したが，学生の主体性を尊重しつつも教職員は彼らの活動と学習のバランスが保たれているか，無理のない範囲で活動が行われているか，確認しなければならない。

３つ目の Curricular の視点では，SCV 研修と各団体が実施しているミーティングを取り上げた。他大学が取り組んでいる，座学と実習を組み合わせた，サービスラーニングの事例と違い，SCV 研修は非単位プログラムのため，研修が必ず行われる保証がない。

表４では，SCV 研修の他に各団体が実施しているミーティングについても記載した。先輩から後輩による指導だけではなく，団体によっては，学外から講師を招き，定期的に研修をおこなっている。しかし，各団体の研修の取組についても大学として保証しているものではなく，学生の要望に大学側が認めているに留まっている。

４つ目の Reflection の視点では，研修内に行う各団体の目標設定，目標達成度の共有を取り上げた。しかし，研修内での振り返りは，各団体レベルで行っているものの，個人レベルで振り返りは行われていない。さらに，各団体が日常的に行っているミーティングのなかで，先輩から後輩にどのような指導が行われ，そこで，SCV 登録者は，何を経験し，何を学んでいるか，検証される機会は少ない。

SCV をサービスラーニングに必要な４つの視点で捉えることができたが，各視点に，課題が残され

表４　サービスラーニングの４つの視点からみた愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア

団体名	1）Community	2）Reciprocity	3）Curricular	4）Reflection
愛媛大学学生メンターズ（ESMO）	高校生 新入生 一般学生	新入生に対する助言 高校生に対する学校案内	SCV 研修 ミーティング	各団体の目標設定・到達度の確認
ECO キャンパス・サポーター（ECS）	一般学生	一般学生に対する環境啓発活動（主に学生祭などに行う，ゴミ分別の指導）	SCV 研修 ミーティング	各団体の目標設定・到達度の確認 学生祭で排出されたゴミの量，ゴミの種類を計測し，前年度のゴミの量との比較
国際交流コーディネーター（ICO）	一般学生 留学生	留学生・一般学生に対して異文化交流の場を提供	SCV 研修 ミーティング	各団体の目標設定・到達度の確認
ボランティアコーディネーター（AIVO）	一般学生 松山市民（主にボランティアに携わる方）	一般学生に対するボランティア情報の提供	SCV 研修 ミーティング 学生ボランティア活動支援・促進の集いへの参加 他大学との交流	各団体の目標設定・到達度の確認， 他大学のボランティア団体との情報共有
障がい学生支援ボランティア（CBP）	障がいのある学生	聴覚障がいの学生に対するノートテイクや手話通訳の提供	SCV 研修 ミーティング ノートテイク・手話に関する研修	各団体の目標設定・到達度の確認， 研修などで生じたトラブル等の情報共有
メディア・サポーター映像部（MSBT）	一般学生 松山市民 （主に松山 CATV，松山市 HP の視聴者）	一般学生・松山市民に対して愛媛大学の情報を提供	SCV 研修 ミーティング 映像制作に関する研修 外部評価・教職員との意見交換会	各団体の目標設定・到達度の確認， 外部評価，教職員との意見交換
メディア・サポーター出版部（MSPT）	一般学生 愛媛県下の高校生	一般学生・高校生に対して愛媛大学の情報を提供	SCV 研修 ミーティング 他大学との交流 外部のアドバイザーからの評価	各団体の目標設定・到達度の確認， 外部のアドバイザーからのコメントを参考に行う，記事の改訂作業
キャリア・サポーター（CS）	一般学生	一般学生に対してのキャリアセミナーの実施	SCV 研修 ミーティング キャリア支援に関する研修	各団体の目標設定・到達度の確認， キャリアセミナー終了後アンケート調査を実施。アンケート結果から，改善点等の確認
図書館サポーター（LS）	一般学生	一般学生に対しての図書館・図書に関する情報提供	SCV 研修 ミーティング 図書館業務に関する内部研修	各団体の目標設定・到達度の確認

ていることがわかる。平尾は SCV のサービスラーニングの課題として，正課教育でないが故の教育効果検証の曖昧さを指摘している（平尾 2009）。

5．おわりに

本研究では，サービスラーニングの視点から SCV の取組を整理し，現状を分析し，課題を明らかにした。どの視点についても言えることだが，課題は，「学生の主体性」に帰する。非単位プログラムのため，学生は，自主的に活動に取り組くむことができる。一方で，自主的な取組のゆえに，学習成果，学習効果について検証することが大変困難となっている。今後，「学生による学生支援」を養成するための教育プログラムの開発や，サービスラーニングに関する正課内授業の導入についての議論を教職員と学生が協同で行うべきであると考える。

最後になったが，SCV の OB として，今後も SCV の取組が継続的に発展していくことを期待している。

注

注１　今回サービスラーニングの定義を紹介した文章の翻訳は，桜井政成・津止正敏が翻訳し，筆者が一部修正したものである。

謝　　辞

愛媛大学教育・学生支援機構に所属する教職員の方々に多大なアドバイスを頂いた。

参考文献

町野美和（2006）『ボランティア論』，Ⅷ章６，200 ミネルバヴァ書房

日本学生支援機構『平成20年度大学等におけるボランティア活動の推進と環境に関する調査報告』

桜井政成・津止正敏編著（2009）『ボランティア教育の新地平』，序章，１-17項 ミネルヴァ書房

Jacoby, B & Associates Service-Learning in High Education（1996）: “Concepts and Practices” San Francisco, Calif : Jossey-Bass Publishers

National Service-Learning Clearinghouse http : //www.servicelearning.org/（2010年９月20日参照）

佐藤浩章（2004）「『お接待』の心をキャンパスに――愛媛大学スチューデントキャンパスボランティアの取組」，『大学と学生』478号

愛媛大学教育・学生支援機構『SCV 活動総括2004－2007』『2008年度報告書』（内部資料）

国際基督大学サービス・ラーニング・センター http : //web.icu.ac.jp/slc/

平尾智隆（2009）『ボランティア教育の新地平』，第９章，212-213 ミネルヴァ書房